

のり海況速報 第3報 (23-3)

平成23年10月28日発行
 千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 10/26：内湾(わかふさ)、10/24：内房北部(わかふさ)
 関東・東海海況速報(10/2411-27)、東京湾口海況図(10/24-27)
 ふさなみ航走水温データ(10/24-27)
 モニタリングポスト(10/26：国土交通省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

今月に入ってほぼ22℃前後で継続していた表層水温(図1)は19日からの冷たい北寄りの風によって低下し、全域でほぼ21℃になっています。塩分はほぼ全域で30～32台で、平年並みになっています。

また、内湾北部は水温・塩分とも表層から底層までほぼ同じになっていますが、中央部では水深15m以深に水温18℃台、塩分33.5以上の水塊がみられました(図2)。

一方、黒潮流軸は9月下旬半ばから変動しており、27日現在御蔵島付近を東に流れた後、房総半島南東岸をやや離れながら北東方向に流れています。

このため、湾口部の水温は22℃前後で、現状では東京湾口への沖合水の流入は少ない模様です。

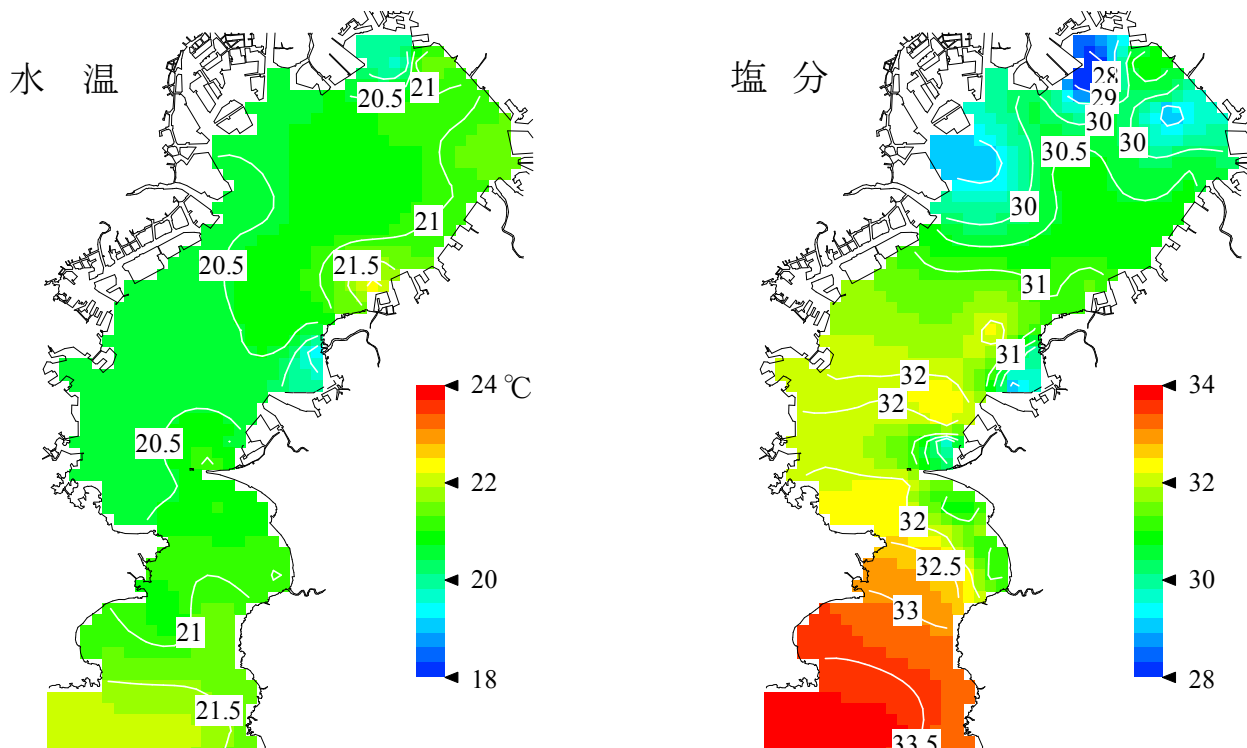


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾～内房北部：平成23年10月24-26日)

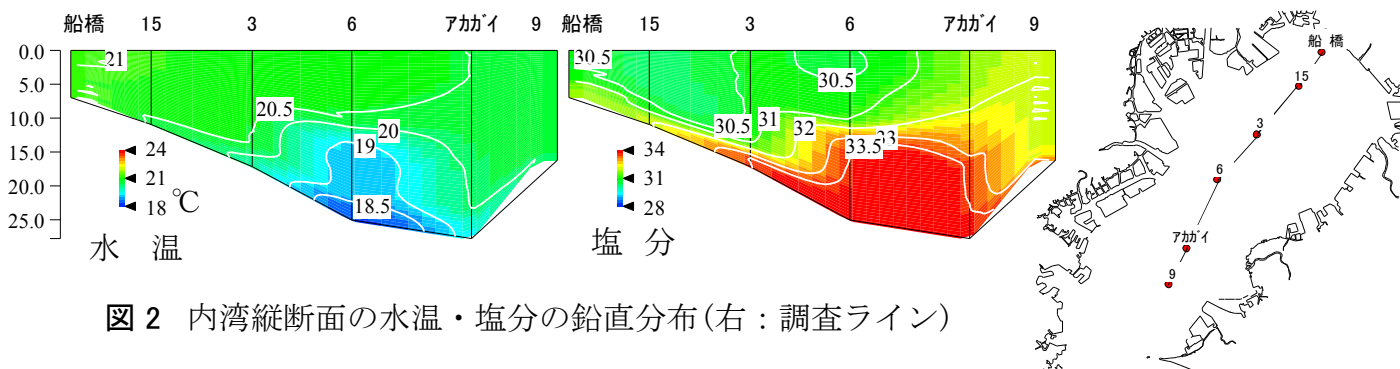


図2 内湾縦断面の水温・塩分の鉛直分布(右：調査ライン)

【赤潮・栄養塩の状況】

10月11日ごろにアクアラインの北側海域で発生した赤潮は17日にはほぼ終息し、現在も発生していません。しかし、透明度は内湾北部で2m台とやや低く、水色はやや褐色で、プランクトンがやや多くみられていました。優占種はこれまでのケイ藻から渦鞭毛藻に変わり、ケラチウムが多くなっています。

表層の栄養塩(図3)は窒素(DIN)・リン(DIP)とも全域で十分あり、各地先の栄養塩濃度(図4)をみても、17日頃から回復していますので、のり養殖にとって問題ありません。

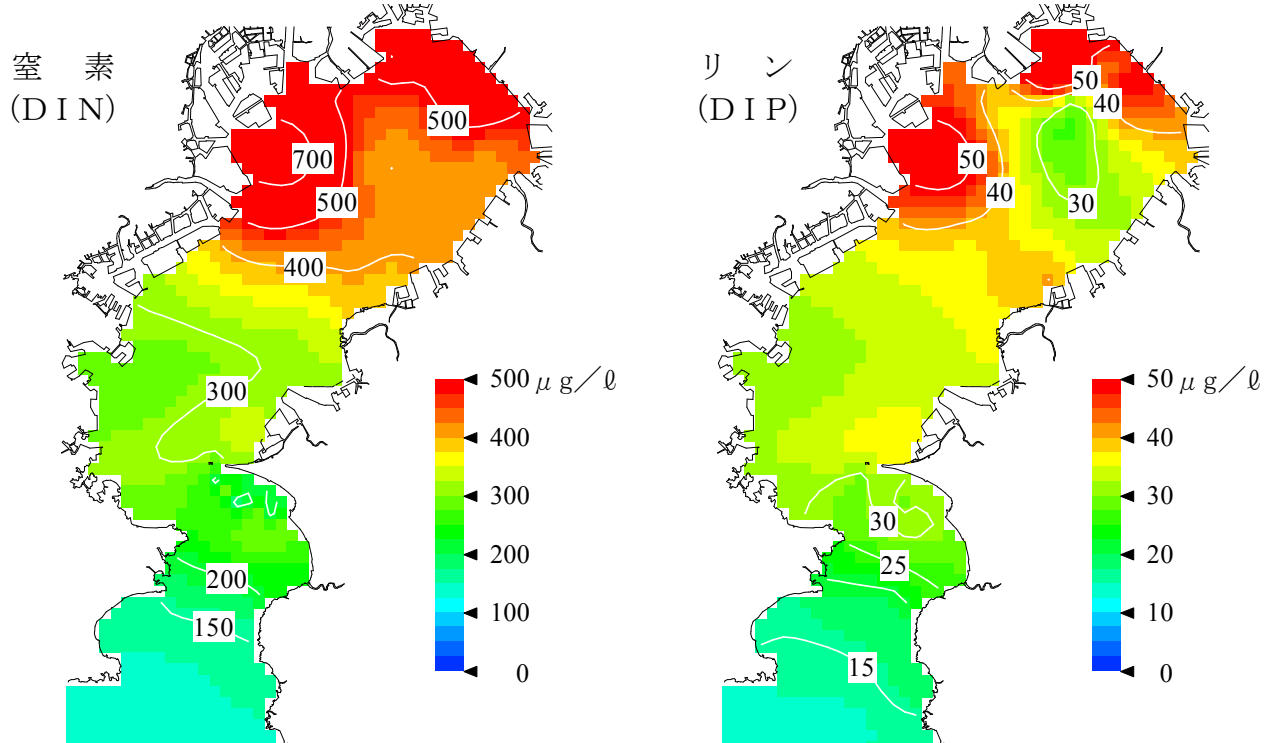


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾～内房北部：平成23年10月24-26日)

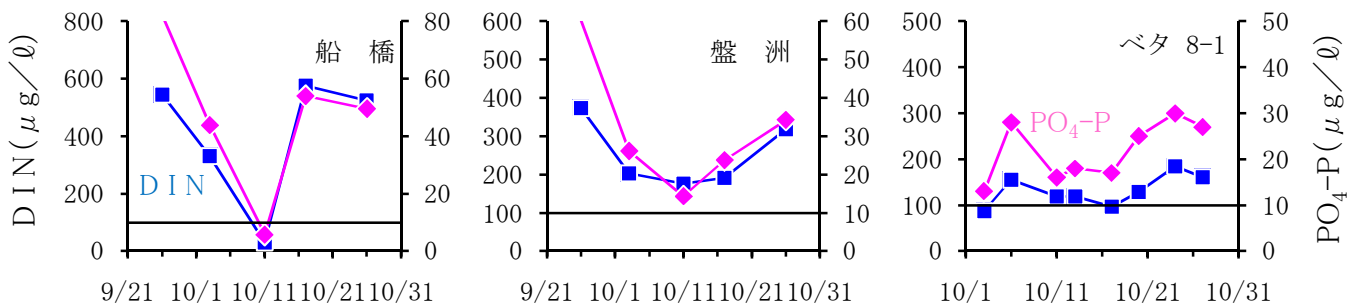


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年9月21日～10月31日)
(図中の横線はノリの色落ちをひき起こすとされる目安の濃度)

ノリ養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各ノリ養殖場(三番瀬、盤洲北部、盤洲南部、富津岬北、富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”ノリ養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html